

地域医療研修レポート

名古屋第一赤十字病院 研修医 2 年目

新城市民病院では 4 週間、地域研修としてお世話になりました。名古屋の都市部で生まれ育ち、田んぼも間近で見たことがない自分には医療以外の面でも非常に勉強になる 4 週間でした。

今回の研修では主に総合診療科の初診を担当いたしました。問診と身体診察を行い、問題点を挙げ、鑑別疾患や必要な検査、治療を考えると一連の診療ののちに、上級医の先生方のフィードバックを受けるといった恵まれた環境での研修でした。この繰り返しにより、改めて自分の診察の流れを見つめ直し、弱いところを補いブラッシュアップさせることができました。初診外来のなかでは今まで診たことのない検診異常の方の診察も担当することができました。そこでは自覚症状のない患者に対しての診療のポイントを勉強することができました。脂質異常症や高血圧、高血糖などは生活習慣に関係しており、短時間で不足なく患者背景を聞き取る訓練となりました。毎日の振り返りでの検討も、自分の浅い知識を深めることに有効でした。経験も知識もある先生方が基本に忠実に丁寧に診察されている様子が印象的で、医学に近道はないのだなと肝に銘じました。また今回の研修では作手診療所での診察を見学しました。見学時、作手診療所では COVID-19 感染症のクラスターが複数が出たところでした。ワクチン摂取が進んでいない中 1 人で地域の医療を担っている重責を現場の医師から聞きました。周辺地域の高齢化が非常に高く、年々人が減っていることも教えていただきました。

臨床の場以外でも、いくつもの学びがありました。その中の一つが EBM 勉強会です。今まで自分の論文の読み方は論文の日本語訳を作り、要約したら満足する、といった英語の勉強でした。それがここでは PECO (P:Patient, E:Exposure, C:Comparison, O:Outcome) といった論文の幹となるものに着目して全体像を把握していました。このことにより非常に早く内容を把握することができ、論文を読むことのハードルが下がりました。PECO を把握することで、読むべき論文、読むに値しない論文の選別ができるということも学びました。今まではインパクトファクターの大きな雑誌の中から選定するという手段しか持ち合わせていませんでしたが、これから自力で論文を選び、なぜその論文にしたかを自分の意見で説明できそうです。また、毎朝のミニレクチャーも勉強になりました。日常的に出会う症候や疾患を取り扱っているものが多かったため、今まで自分の中でバラバラしていた知識を整理しまとめることに役立ちました。今までの知識が整理されたことにより、プレゼンテーションの中で提示されていた自分にとって新しい情報を、難なく吸収することができました。

最後にはなりませんが、4 週間の研修を見守り、丁寧に指導してくださいました新城市民病院、作手診療所の皆様、患者の方々には御礼を申し上げます。今回の研修で学んだことをこれからも実践し続けたいと思います。本当にありがとうございました。